

青森山田高等学校

住所 青森市浜田字板橋二三番地

生徒数 男子一二八六名 女子一三〇名

部員数 男子 一二名

顧問 後藤 清治

コーチ 大井 芳光

沿革

大正 七年 創立者山田きみ先生が青森市新町の自宅に裁縫塾を開く。

昭和 六年 各種学校令による青森家政学園設立許可。

昭和 二十六年 財団法人山田学園はその組織を変更し、学校法人となる。山田きみ学園理事長に就任する。

昭和 三十七年 学校法人山田学園を学校法人青森山田学園と改称。

昭和 四十一年 理事長に木村正枝就任。

昭和 四十三年 青森山田学園創立五十周年記念式典挙行。

昭和 四十七年 全日本高校総合体育大会で卓球女子団体優勝。

昭和 五十年 全日本高校総合体育大会で卓球男子団体優勝。

昭和 五十二年 青森山田高等学校新校舎完成にともない移転。

昭和 五十四年 青森山田学園創立六十周年記念式典挙行。

昭和 六十二年 全日本高校総合体育大会で卓球女子優勝。

新体操（団体、個人）全国高校総合体育大会で完全優勝。

昭和 六十三年 青森山田学園創立七十周年記念式典挙行。

全国高校総合体育大会で新体操優勝。

平成 二年 木村滋男校長「勲四等旭日小綬章」叙勲

新体操男子全国大会三冠達成

（全国高等学校総合体育大会）

（全国高等学校選抜大会）

（第四十五回国民体育大会）

新体操男子、東奥賞受賞

平成 三年 青森県高等学校総合体育大会敢闘杯獲得

青森山田学園理事長木村正枝県褒賞受賞

新体操部県褒賞受賞

平成 四年 現在 創立七十六年

。学校経営方針

(一) 校 訓 誠実、勤勉、純潔、明朗

(二) 教育目標 一、品性の陶冶を中心に教師と生徒との人間的交流をはかる。

二、校訓の実現に努力する。

(三) 四年度重点目標

一、学力の向上をはかり、個別指導に重点を置く。

二、生活態度を厳正にし、かつ人間味ある教師と生徒との交流をはかる。

三、クラブ活動を通して、青年期の精神生活の確立を得させる

四、生徒会活動に於いて社会性を持たせ人間尊重

(四) 重点目標達成のための具体的計画

の精神を養う。

一、学習指導、

イ、授業時数の確保。

ロ、授業内容を豊富にするため資料を活用し又

研究視察経験を通して力をつけさせる。

ハ、H・Rを通じて学業に興味を持つよう個別
的接触をはかる。

二、宿題・研究レポート等、自主的な努力によっ

て学業が促進されるよう
指導に工夫する。

ホ、図書館の利用によっ

て読書指導する。

二、生活指導

イ、校長、理事長の特別

講話を効果的に配置

する。

ロ、進学、就職の指導は

適性能力を考慮して

やる。

ハ、近代的な正義感、奉

仕の精神を養い行動力

のある態度を養う。

二、高校生としてとれる資格を出来るだけ取得

させるように指導する。

ホ、個人的な迷い、家庭的な悩み、社会への疑問
等常にこまかい心づかいを持ち、相談にのる。

現況

本校は、普通科、情報処理科、自動車科、土木建築デザイン調
理科、調理科を擁して総合教育を目指している。普通科には特進
コース、体育コース、教育コースを取り入れ、幅広い教育を展開
している。特に特進コースでは河合塾との提携による通信衛星を
利用したサテライト講座を開設、実業科では、独自のカリキュラ
ムで生徒を教育すると同時に個性の伸長をはかり、社会人として
の教養を高めるために、先生方が率先的に取り組んでいる。

また、養成施設として指定を受けている各科は、将来に向けて
の各種資格取得のため、生徒全員が毎日の授業に一生懸命である。
このような中で本校空手道部が誕生したのである。公式試合の
初参加は、昨年の総体からであり団体戦の一勝を目標に稽古に励
んでいる部員の姿に無限の可能性が秘められているように頼もし
く思う。

空手道部の新設にあたり、校長先生の御理解を頂いたことを、
忘れることは出来ません。今後、コーチの大井先生、御父兄の方々
の協力、応援に支えられながら部員と共に夢の実現に向って精進
したいと思う。

